

(第 1 面)

産業廃棄物処理計画書	
2019年 6月 20日	
愛 知 県 知 事 殿	
提出者 〒467-0861 住 所 名古屋市瑞穂区二野町9番16号 氏 名 戸松冶金株式会社 代表取締役 戸松 利徳 電話番号 052-881-8111	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	戸松冶金株式会社 刈谷工場
事業場の所在地	愛知県刈谷市泉田町東沖ノ河原 1 - 1
計画期間	2019年4月1日 ~ 2020年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	非鉄金属製造業・産業廃棄物処理業
②事業の規模	製造品出荷額 210,000万円
③従業員数	32名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	産業廃棄物発生フロー 使用済電池 電池メーカー廃材 解体・選別 廃プラスチック 市中鉛滓・汚泥 金属くず 破碎・洗浄 溶解 スラグ発生 腐食性廃酸 中和・凝集 汚泥発生 脱水 脱水汚泥発生 放流 廃プラスチック 金属くず 腐食性廃酸 再生業者に譲渡

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

社長 (統括責任者)

事業部責任者



環境管理委員会 (環境管理責任者)



工場長



各製造責任者 (廃棄物発生状況把握管理)



各部署廃棄物責任者 (廃棄物管理者)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状

【前年度(30年度)実績】

産業廃棄物の種類

汚泥

鉍さい

排 出 量

950 t

803 t

鉍さいの発生は溶融状況により排出量が大きく変化する、常に良好な状態で操業保持出来るように作業管理盤を設置、使用原料の管理や作業管理に重点をおき、効率の良い操業が出来るように努める。

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類

汚泥

鉍さい

排 出 量

1,000 t

900 t

現状の取り組みを継続して行き、発生の抑制に努める。

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

②計画

(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 30年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	鉍さい
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	133 t
	鉛が付着した鉍さいは再度炉に投入している。 。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	鉍さい
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	150 t
	リサイクル方法を模索中		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 30年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	鉍さい
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	855 t	0 t
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	鉍さい
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	850 t	0 t
	現状の取り組みを継続して行う。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 30年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	鉍さい
	全 処 理 委 託 量	95 t	670 t
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	95 t	670 t
	再生利用業者への処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	鉋さい
	全 処 理 委 託 量	90 t	650 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	90 t	650 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			